日本キリスト教団 **東金教会〔３８〕**
2020年9月20日 聖霊降臨節第１７主日礼拝

年度目標　《教会の民として生きる》

聖句　良いし知らせをエルサレムに伝える者よ。
声をあげよ、恐れるな　イザヤ書４０章９節

【礼拝式次第】

司式		安延
奏楽		中里
受付		津久田
案内		武田
名札係		足立
礼拝感謝祈祷		足立
〃　〃		武田
前奏		中里
讃美歌	５９	一同
使徒信条	５６６	〃
交読文	３６	司・会衆
主の祈り	５６４	一同
聖書		司会者
〈マルコ福音書４章２６節～２９節〉		
祈祷		安延
新聖歌	３３８	一同
み言葉の伝え		中村
〈成長する神の国〉		
讃美歌	２２９	一同
献金		
礼拝感謝		足立
〃　〃		武田
報告		安延
頌栄	５４１	一同
祝祷(派遣)		中村
後奏	新聖歌５８	聖歌隊

【集会案内】

聖研祈祷会	９月２３日(水)午後7時半～
早天祈祷会	7:00～(除・木/日/祭日)メーヤー館
敬老感謝会	本日礼拝後
聖書輪読会	９月２７日(日)9:50-10:10
礼拝準備祈祷	９月２７日(日)10:25-10:30

【報告】

☆本日は敬老感謝会です。信仰の先達者への感謝と共に今日までの神の導きを讃え、又、更なる導きを祈りつつこの時を過ごしたく願っております。どうぞ感謝会にご出席下さい。

☆９月１９日(土)幼・保園運動会を無事持つ事ができました。幸い過ごし易い天候を与えられ、事故なく楽しく持つ事ができました。ご加祷を感謝すると共に来年は卒園生、教会学校の生徒たちと共ににぎやかな運動会となることを願っ　ております。

☆クリスマスに向けての聖歌練習を10月27日より開始します。これは東金混声合唱団の市川先生より強いお勧めを戴き、先日の長老会で決したことです。コロナ対策に意を用いつつ計画を進める所存です。ご加祷下さい。

☆この時期恒例のバザーは幼稚園PTAの要望もあり、11月3日(火)内々で持つ予定です。

☆星野富広カレンダー11月15日が〆切りです

※礼拝の持ち方についてのお願い
礼拝は従来のように座ってお守り下さい。但し祝祷後のアーメン頌については最前列に座られる方(ベンチ１脚につき２人まで)は牧師と共に講壇を向いて起立して讃美しても可です。前列以外に座っている方はご自身の前にお座りの方に配慮し最後まで座ったままで讃美して下さい。

※千葉支区祈りのカレンダー（掲示板）
今週は千葉教会(西岡　牧師)が対象教会　です。お祈り下さい。

※マルコ福音書連続講解説教のCD希望者は牧師まで申出下さい。

○東総分区牧師会　9/25　10:30～
於・九十九里教会

【９月２０日～９月２６日の誕生者】

○9/20張　姉　○9/25吉川　兄
○9/26五木田　兄　※互いに主に繋がる枝として祈り合わせて参りましょう。

【先週集会状況】

集会名	男	女	計
主日礼拝(9/13)	17	36	53
聖研祈祷会(9/16)	3	1	4
聖書輪読会(9/13)	2	3	5
教会学校(9/13)	6	9	15

早天祈祷会			
日	男	女	計
9/14	1	1	2
9/15	1	1	2
9/16	1	1	2
9/18	1	1	2
9/19	1	1	2

主日礼拝献金(９/１３)……４０,０００円
教会学校献金(９/１３)……６,３５０円

【今日のメッセージ】

題　〈成長する神の国〉
聖　書　マルコ福音書4:２６～２９

1・継続して蒔かれる神の種

2・神の種の深化

3・信仰の自然的成長

【次週(９月２７日)礼拝式案内】

み言葉の伝え　〈拡大する神の国〉
聖書　マルコ福音書４：３０～３４
交読文　３７
讃美歌　６１番　３２４番
新聖歌　３３７番

【次週(９月２７日)礼拝式当番者】

御言葉の伝え	中村
司式者	井上
奏楽者	中村
受付者	坂本
案内者	寺内
名札当番	梅田
礼拝感謝祈祷	藤田
〃　〃	薬師寺
ｃｓお話し	戸波
会堂清掃者	武田
〃　〃	
花係	小林
看板書き	藤田

【聖書から】

また、イエスは言われた。「ともし火を持って来るのは升の下や寝台の下に置くためだろうか。燭台の上に置くためではないか
マルコによる福音書四章二一節

ともし火、それは何より部屋を明るくするためのものである。イエスはこのともし火のイメージをもって神のもたらす光を語る。この光は小さな光である。神ならばもっと強烈な、輝きに輝いた光をもってご自身を表したらどうなのか。私達信仰者もそんな力強い光を纏って主がこの世にお下りくださったらどんなに励まされるかを思う。そうであったら堂々と神の力を語る事ができるし、この光をもって世の不正を断罪することもできる。それこそ神の兵士として世の悪をなぎ倒すことが出来るのである。ともし火のような弱い光では頼りないことおびただしいではないかと切歯扼腕する。なぜ神はそのような力に満ちた神ではないのか。このような力への渇望は現代の信仰者に多く見られることではないか。いや、今も昔もこの力は渇望の的である。世の信仰団体に声高に神の力を求め叫ぶ団体は少なくないのである。否、そう言った群だけでなく私たち自身ほんとうはこのような神の力を見たいし、手にしたいのである。けれども人はこのような力をごくごくごく一部の選ばれた人にしか与えようとはなさらない。濫用をさせないためである。どのような状況にも濫用しない―例えば主イエス・キリストとかモーセといった真の選びの民だけは別として、他の者達には絶対与えない。たとえばそれを与えられた人が世界に十人いたとしたなら世界は滅びに走り出すだろう。昔、モーセだけが神と顔と顔を合わせることが許されたのは故なしとしない。神はこのような凄まじい光でなくともし火を貴方という燭台に置こうとされる。そのともし火によってあなたの内を照らされよと言われる。ともし火に照らされただけで私たちの内なる汚れや罪、弱い所、不十分な所、不整理な所は一目瞭然である。謙遜に、私という燭台の上にともし火を置かれることを求める者となりたい。

【礼拝心得】

①礼拝は前奏から後奏までを守る。
②入堂したら私語を交さず、前奏までの時を黙想する。
③遅れてきた者は静かに入堂し、特に祈祷の時は入堂を控え、その場で共に祈りを守る。
④礼拝後は互いに挨拶を交し、交わりの時を持つ。
⑤各自週報棚を整理し、欠席者に週報を届ける。